

総合交通政策調査特別委員会

（平成25年 1月25日）

豊田政典委員長

皆さん、こんにちは。

総合交通政策調査特別委員会を開催いたします。

毛利委員から欠席の連絡をいただいております。あと、おくれて来る方が2名ほどみえます。

傍聴の方は、市民の方、報道機関の方、合わせて6名ほど入っておられます。

年がかわりまして、いよいよ方針決定の年を迎えました。ことしも1年、時間は限られておりますが、よろしく願いしたいと思っております。

本日は、手元の事項書は大変簡単なんですけれども、幾つか報告や協議いただきたいことがありますので、よろしく願いしたいと思っております。

お手元に資料が幾つか配付されていますが、順次説明いただいたり、扱っていきいたいと思っております。

じゃ、まず、順番がちょっとあっちへ行ったり、ばらばらになるかもしれませんが、手元の資料の中の市民アイデア募集の結果(まとめ)という表紙のやつをまず出していただきたいんですけども、表紙をめくっていただいて、1ページに書いてありますとおり、当委員会として、昨年11月から12月にかけて、市民の皆さんにアイデアを募集しましたところ、総数165件もの意見、アイデアをいただきました。それを事務局のほうで、2ページ以降にまとめをしていただきました。目次にもありますが、大きく1番目として、市や市民が実施できること、これが2ページから7ページ、二つ目が、近鉄が実施できること、8ページから11ページ、3番目に、市や市民が連携して実施できること、12、13ページという、大きな分け方をしていただきまして、それぞれの中にも構成としては、大分類として例えば2ページでは利用促進についてまず分けて、小分類で内容の項目を分けていただいて、左の欄に同じ意見のアイデアをもらった人数を書いてあると、そんな構成になっておまして、随分1人の方がいろいろ意見を出されたケースもありますので、事務局には随分ご苦勞をかけた上で、現在のようなまとめになっております。

それから、まだできたてのほやほやで、ちょっと修正部分もありまして、訂正だけお願いしておきたいんですが、表紙裏の目次のところを見ていただいて、2の(3)のタイト

ルですけど、「市や市民が連携して」と書いてありますが、これを修正いただいて、「市や市民と近鉄が連携して」に直しておいてください。「市や市民と近鉄が連携して実施できること」というのが正しいタイトルです。

これについては、まだできたばかりで、それから、皆さんにお配りするのはきょうが初めてなので、ぜひ持ち帰っていただいて、市民の皆さんからの大事なアイデアですから、各自熟読をいただいて、扱いについて、予定では2月7日、次回は小嶋先生に来てもらいますので、2月7日にその扱いについての議論をしていきたいなというふうに考えております。

あわせて、これも相談ですが、議長にも相談したんですけれども、まず、市民募集をして、ホームページ等で募集をしましたので、現段階でのまとめを市議会のホームページに出してはどうかという議長からのアドバイスもありますので、このまとめの形で、ホームページに、お礼を兼ねて、公開をしていく方向で作業を進めさせていただきたいなと。

それから、あわせて特別委員以外の皆さんにも全議員に配付をすること。また、一番回覧等でお世話になった四日市市自治会連合会というか、自治会様にも、四日市市自治会連合会の事務局のほうに報告に行きたいなと思っておりますが、その点について、皆さん、ご了承いただければ、作業を進めたいと思いますけど、いかがでしょう。よろしいですか。

(異議なし)

豊田政典委員長

ありがとうございます。

じゃ、この市民アイデアの扱いについては対外的にはそのようにさせていただき、また、委員会では、今後の扱いにしたいと思しますので、ご熟読をいただいておいてほしいなと思います。

諸岡 覚委員

ホームページに上げることは全然異議ないんですけれども、ちょっとシステムがようわからん。ホームページに上げるか、上げやんかの権限というのは、そもそもこの委員会に

あるんですか。あれというのは、広報広聴委員会やったか、どこが決めるんですか。上げることは全然異議はないんやけど、ここで決められることなのかなと、ちょっと思ったもんで。

豊田政典委員長

詳しくは考えてなかったところもあるんですが、議長は広報広聴委員会の委員長でもあるので、了解を得ているのでいいのかなと思っていたんですけども、権限は広報広聴委員会なのかな。議長にあるのかな。

諸岡 覚委員

変な話、そうすると、例えば私は都市環境常任委員長なんやけれども、都市環境常任委員会これを上げようと言ったら、上げられるのかなという、その辺がちょっとよくわからなもんで。ここでもし、それ、前例をつくってくれば、ほかの委員会でも上げたいことを上げられるじゃないですか。と、思って、ちょっとそのシステムだけ確認したかったんですけど。上げることに異議はないんですが。

豊田政典委員長

ルールね。そこまで確認していないんですよ。事務局、わかりますか。今、みえる事務局で。

清水議会事務局副参事

ルールといった明確にお決めいただいたものではなくて、このアイデアを募集するのをこの委員会で決めていただいて、それを議長に申し入れしていただいて、意見を募集することになったと思いますので、広報広聴委員会にかけて募集したということではありませんでしたので……。

豊田政典委員長

明確なルールはないけれど、議長権限ではないかと、であろうということだと思いますが。

小林博次委員

このまとめの表題、市民アイデア募集の結果（まとめ）と書いてあるんやけど、まとめというのは、何か委員会で何かをまとめた、まとめみたいになるので、この場合は集約と表記すべきやないかなと思うんやけど。

豊田政典委員長

市民アイデアの。

小林博次委員

アンケートの集約。

豊田政典委員長

市民アイデア募集をしましたが、結果ではないということですよね。

小林博次委員

結果というのは、何しろと、こうしようかというのが結果ですので。

豊田政典委員長

集約。集約がいいのかな。まとめのまとめのが、いいんですかね。まとめ。結果がと一緒やな。

諸岡 覚委員

いただいたご意見。

小林博次委員

そうそうそう。

豊田政典委員長

そうやな。市民の皆さんからいただいた近鉄内部・八王子線何ちゃらの。

諸岡 覚委員

ご意見をいただきました。

豊田政典委員長

いただきましたということですね。そうしたら、いただいたご意見というタイトルで、ホームページにし、また、議員の皆さんに配付させていただきたいと思いますので、これは、じゃ、修正しますので、改めたものをまた皆さんにも、全議員、それから、対外的に配付していくと、タイトルを変えて、ということにさせてください。

この項目については、よろしいでしょうか。

(異議なし)

豊田政典委員長

次に、きょういろいろあるというふうに口頭で申し上げます。ちょっと事項書にまとめ切れなかったので、こんな議論をしたいな、相談をしたいなということで、今から言いますが、まず、手元にも配付していますが、前回、資料請求いただいたものに対する資料をいただいている、その説明、質疑というのを一つ、それから、次回1月31日に両備ホールディングス株式会社の小嶋会長様に参考人として来ていただいて、講演をいただき、質疑が予定されていますので、それにまつわる改めての説明、それから、どんな質問をするのかというのを、あれば出していただきたいという作業が二つ目、それから、今後の進め方というところで、正副委員長から、こんな方向でということ、皆さんに相談差し上げたいので、これが三つ目です。それから、その他で、議員連盟というか、四日市市自治会連合会のほうから、ある点をいただいていますので、そのことの報告と、皆さんの意見をいただくというのが四つ目としてあるんです。

前の日になんですが、どうしようかな。まず、どうしてもやらなければいけない、急いで、次回の小嶋会長の話を先にやらせていただきたいと思います。

これは、前、決めていただいたように、次回1月31日の木曜日の午後2時からの予定で、

両備ホールディングス株式会社代表取締役会長であります小嶋光信様にお越しいただき、和歌山電鐵貴志川線及び小嶋会長について、今から簡単な説明を改めてさせていただいた上で、それから、事前に依頼したときの文章を配付しますので、そのことの話をした上で、きょうの時点で、こんな質問をしたいというのが皆さんから出してもらえれば、事前に小嶋会長に送っておきたいと思っておりますので、そのあたりの議題に移りたいと思っております。

手元に資料として、まず、参考人への依頼事項についてというタイトルのあるもの、1枚紙のペーパーを見てください。1枚紙です。一番上に、＜参考人への依頼事項について＞というやつ。

これは、参考人として来ていただく際に、事務局から小嶋氏に対して送らせてもらった文章で、1番としては、近鉄内部・八王子線の概要ということで、記載のとおりでございます。経緯として、文章を書きました。そして、依頼事項としては、ここに書いたように、現在四日市市としては運営費補助を支出する考えはなく、市議会としても既存路線の存続を目的として協議を行っています。つきましては、鉄路存続についてのアイデア等をご教授いただきたく、送付させていただき資料をごらんいただいた上で、下記事項についてご意見・ご助言賜りますようお願いいたします、ということ。

1番としては、現在の同路線の運営・経営状況に関する評価について。言いかえれば、経営改善の余地が見出せるのか否かについてのご意見。経営改善の余地・可能性があるのであれば、その内容について。

2番、和歌山電鐵貴志川線の経緯を踏まえるとき、近鉄内部・八王子線の乗客増・路線存続のために、行政・市民ができる事項、やるべき事項についてのご提案についてという文章とともに、委員会に出された委員会資料を送付させていただき、こういった方向から話をいただくことになっております。

我々の頭の整理というところもあって、きょう改めて貴志川線の資料、資料はホチキスどめで1枚目が横書きなんですけど、特別委員会の参考人についてとあるやつです。表になっているもの、ありますか。

ざっとしたおさらいということで、今から事務局にポイントだけ説明をいただいて、その後、皆さんのほうで質問があれば出していただきたいなど。当日に向けての質問ね。では、事務局、ざっとお願いします。

栗田議会事務局主事

それでは、事務局のほうから、先ほど説明がありました、総合交通政策調査特別委員会参考人についてという資料につきましてご説明をさせていただきます。

来週の木曜日、1月31日でございますけれども、参考人として両備ホールディングス株式会社代表取締役会長である小嶋光信様にご出席いただくこととなっております。つきましては、参考人の主な経歴などにつきまして、簡単ではございますけれども、ご紹介させていただきたいと思っております。

参考人である小嶋様におかれましては、資料の主な経歴という欄にもございますけれども、慶應義塾大学を卒業されまして、三井銀行に入社されています。その後、両備鉄道株式会社にご入社されまして、常務の職につかれております。1975年には岡山タクシーの社長、1999年には両備バスの社長を務められております。そして、2006年、平成18年でございますが、この年は、和歌山電鐵の前に貴志川線を運営されておりました南海電気鉄道が運営を断念しまして、和歌山電鐵株式会社に事業譲渡をされた年でございます。その和歌山電鐵の社長に就任をされておるということです。その後、2011年に両備ホールディングス株式会社代表取締役会長の職につかれまして、現在に至っておるということでございます。

それで、参考人が社長を務められて再生事業に取り組まれた和歌山電鐵貴志川線につきましても、簡単ではございますが、ご紹介させていただきます。

資料の備考のところ、具体的な取り組みという項目にも記載してございますが、いちご電車やおもちゃ電車、また、たま駅長ということで、こちらはテレビのCMでも取り上げられていまして、全国的にも知られているところではございますけれども、こういった趣向を凝らした列車の導入と、あわせて列車の運転の安全性を確保しながら、人件費の削減に積極的に取り組まれておるということで、2006年、社長に就任されて以降、3年足らずで利用客数は10%増加して、収益性も着実に改善しつつあるということでございます。

1枚めくっていただきまして、貴志川線の再生【抜粋版】という資料があろうかと思っておりますけれども、こちらにつきましては、第6回の特別委員会で理事者側より配付された資料でございます。その際、説明といたしますか、お示しがされておりますもので、詳しい説明のほうは割愛させていただきたいと思っておりますが、参考となればということで、本日再配付させていただいておるものでございます。

事務局からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

豊田政典委員長

資料については、これまでも委員会に出された資料をまとめた形になっていますので、詳しくは説明しませんが、改めてこの辺はポイントかなというところ、皆さん、また次回までに読んでいただいて、おさらいをしておいていただきたいなというところの簡単な説明でしたが、今から、ぜひ当日こんなことを答えていただきたいというのがあれば出していただいて、それを小嶋さんに送りますが、大変忙しい方ということで、飛び回っていらっしゃるの、事前に送って、それにどれだけ準備いただけたら、不確定なところもありますが、ぜひ事前にこれだけは考えておいていただきたいというのがあれば、きょうの時点ですべておいていただきたいなと思いますので、ある方は挙手を願いたいと思います。どうでしょうか。

あるいは、和歌山電鐵貴志川線について、この辺をもうちょっとデータはないかという意見でも結構です。

中川雅晶委員

ちょっとあんまり詳しく読み込んでないのでよくわからないんですけど、この経緯と、それからこの財務のシミュレーションといいますか、どういうふうになってきたかという、財務シミュレーションの経緯みたいなやつが、ちょっとわかりやすく資料として欲しいなと思うんですが。

豊田政典委員長

経緯というのは、どの時点かな。

中川雅晶委員

南海電鉄から和歌山電鐵へ経営主体が……。

豊田政典委員長

移るときの。

中川雅晶委員

それと、この和歌山電鐵になってからの財務シミュレーション。

豊田政典委員長

財務シミュレーション。

ほか、どうでしょう。

加藤清助委員

聞きたいことということで言うと、この6ページにずっと経過が書いてあって、南海電鐵がもうやらんよと言うたんだと思うんですけど、それで全国公募したという経過がありますよね。その中で、何でこの和歌山電鐵のところがプレゼンに応募してきたか。普通に考えると、そんなもうからんようなところに手を出したくないというのが普通やと思うんですけど、あえてそれをわかっておいて、今の経営状況だとか、それから、これまでの利用人数だとか今後の人口推計だとか、わかっている中で、あえてプレゼンで応募してきた、これをやることになった動機というの、それは何なんやろうなというふうな、漠然と思いましたけどね。

豊田政典委員長

わかりました。

ほか、どうでしょう。

いいですかね。きょうは。

(なし)

豊田政典委員長

それでは、今、二人の委員から出された内容については、早速小嶋さんのほうに連絡をして、可能な範囲で準備をいただくということをお願いしておいて、あと、当日またいろいろご質疑や意見があると思いますので、当日に臨んでいただくことにさせていただきます。

さい。

あわせて、これも藤井議長に相談したんですが、特別委員会で参考人として来てもらいますが、ほかの議員、全議員にも案内を出させていただいて、傍聴できる方は傍聴してくださいという案内を出す方向でいきたいと思っていますので、ご了解いただいております。

じゃ、1月31日は午後2時からスタートということで、細かい時間のタイムスケジュールというのは、まだ調整ができていないんです、実は。小嶋さんの電車の時間とかも、まだはっきりしていないところがあって、2時からというのは確実にお願いできるんですけども、なかなか本人と連絡もつかなくて、秘書の方を通して話をしている、時間の余裕があれば、近鉄内部・八王子線にも乗ってみたいというご意向もあるそうですし、また、終わった後に時間があれば、都市整備部とも意見交換できるように相談している最中です。まだ確定の時間はもらっていませんが、少なくとも当委員会では、2時から2時間ないし3時間とってくださいというお願いをして、了解は得ておる状態でありますので、当日スケジュールしておいてください。

じゃ、この件はここまでとします。

次ですが、やっぱりこの話をしないと、なかなかほかができないので、今後の進め方ということで、今から正副委員長で考えている方向性について提案をしますので、協議をいただきたいと思います。

ペーパーにまとめる時間がなくて、そこまで至っていませんので、よく聞いておいてほしいんですが、今までの委員会、去年までで、いろいろと熱心に議論をいただいてきました。当初というか、我々としては、近鉄と四日市市が協議を進めていくと、途中で都市整備部、四日市市のほうから、いろいろ相談とか提案があった際に、それについて協議をしていこうというスタンスを持っていて、その流れの中で考えていたんですが、なかなかそれが、今までは、去年まではあまりなかった。

先日、都市整備部と打ち合わせする中で、これからいよいよ期限もありますから、近鉄と四日市市は本格的にというか、具体的に協議を進めていくんだと。しかしながら、協議内容については、今まで以上に、今まで以上に、交渉事ですから、公式の場では出せない部分も出てくるだろうということが一つ。

それから、ことしの夏までにという期限はありますけれども、その間、何月にどんな内

容というのが、交渉の中身については、見通しとしては立てられないと。わかりますか。どこの時点でどんな内容が交渉されるかというのも、今のところ立てられない。そんな状態ということでした。

委員会として、その動きを待っていたのではなかなか話は進みませんから、かといって期限もありますから、提言をまとめていく、今までの議論を踏まえて、委員会としての提言書を集約していく方向に向かっていけないかということを考えてみました。

めどとしては、これも相談ですけれども、一通りしゃべりますね。4月に集中的に議論をいただいて、今まで集約してきたものが合意できる範囲で、5月中旬ぐらいまでには、この近鉄内部・八王子線に関する当委員会の提言書をまとめられないかなということでした。

内容について、ペーパーにまとめられませんでしたので、ちょっと書かせてもらいますが、こんなことではないかと。

まずは、基本的な部分で、同路線の経営主体についての議論をするべきではないか。これは、例えば近鉄の分社化という選択肢もあれば、選択肢としてですよ、第3セクターというのあれば、他社に委ねるとか、あるいは市営という選択肢も議論としてはあると思います。経営主体についての議論。

2番目に、どこがやるにしても、市の補助、お金ですね、補助のあり方、範囲、どこまで補助すべきなのか、できるんだろうかという議論。これをやれないかということでした。

それから、3番目としては、今までも議論してきましたし、今回、市民の皆さんから、いろいろと意見をいただいています。経営改善についての提言、経営改善策。これについては、きょうの分類でもありましたが、経営主体がやるべき内容、それから、市民がやるべき内容、それから、四日市市がやるべき内容、分類はいろいろあると思いますが、今までもいろいろ意見をいただきました。それから、市民アイデアの議論もしていきたいなというところでした。

4番目としては、3番にかぶってくる場所もありますが、鉄道の環境整備という分け方をしてみますけど、これは、例えば今まで出てきたようなことという、路線の周辺開発をするべきじゃないかという、資料請求とかいろいろしてもらいました。周辺開発の話とか、あるいはバスとの連携というか、そういう意見も、議論もしてきました。というか、将来的な話になるかもわかりませんが、車両のあり方ですね。路面電車に接続するようなこと、そんな考え方もあるんじゃないかとか、あるいは駅舎であるとか、近鉄本線と結ぶ、

結ばないというようなところのことを、環境整備という言葉で今ちょっと分けていますが、こんな話。

5番目としては、これも3番と重なりますけれども、市民である我々や、あるいは企業に対する働きかけとか、市民や企業にこんなことを呼びかけてはどうかと、市民ができること、また、こういう努力をしてほしいみたいな、こんな提言。

こんなようなところで、これとこれが根幹にかかわる部分で、あとはこれまでに何度かやってきた議論の集約になっていくかと思えますけれども、こういったところ。

こういうようなまとめの集約の方向で、これから4月、5月へ向けて議論をしてはどうかという提案なんです。そこをもって一旦区切りとして、その提言によって行政の後押しになればいいし、交渉の障害にならないような形で、特別委員会としての提言になればいいなというのが正副委員長の提案でありまして、それが5月ぐらいまでにまとめられないか。

その後、コミュニティバスという別のテーマが残っていますから、それをやりつつ7月ぐらいまでという最初の話ですので、その間に、もしも交渉段階で、特別委員会に対する報告はもちろん受けたいと思いますし、相談されるべき事項があれば、そこへ随時扱っていくと、そんな流れを考えてみたんです。このことについて、皆さんの意見をいただき、決めていければなということです。どうでしょう。皆さん、ご意見ください。

小林博次委員

よろしいか。

新しい試みがようけ出てくるんやけど、その提言というのは、ちょっと日本語の意味がわからない。委員会は委員会報告でと、これが従来のルールですから、それが提言に置きかわっていくのかどうか。そんなことは付託されていないと思うんや。この委員会に。調査研究の依頼はされた。経営主体、近鉄側の経営内容にまで踏み込んでいったら、とてもそんな調査権限を持っていないので、実際にはできないと思うんやわな。本体から切り離して、今、子会社化をするかなぐらいのことは議論はできても、それから、市の補助金は出すのか、出さんのか、ここは存続で議論していますから、当然出してでも残せということなんやわな。そんなの近鉄が聞いたら、ほんじゃ、議会も言うておるのやから、補助金をいただきましようかという話にしかならないので、全然話にならんわけやろう。項目を

分けて、ようわからんことはないんやけど、それは最終的なまとめの合意書の中で、そんなことを少しずつ触れたいという話があったら、それはそれで結構ですけれども。ただ、1個1個いくと、とても掘り下げて議論する条件は持ってないと思うよ。あまりにも専門的知識がなさ過ぎるとかね。我々の側に。

豊田政典委員長

最初に言われた提言という報告書、報告書と同じと考えています。報告書の中で、提言というものをまとめるというか、報告書として、我々はこういう意見で議論してきましたという報告書ですよ。1個1個というか、今までこの辺を特に時間をかけてやってきていますから、そのまとめ、報告書をこういうふうな区分でまとめていきたいなというふうに捉えてもらえばいいと思うんです。1個ずつに新たにやるということではなくて、今までも事例を見ながら議論してきましたので、それをまた整理し直した作業も、こっちからも提供しますので、今までのやつね。それについて議論をし、集約できればいいし、できなければ各論併記になると思うんですけれども、一定の報告書をまとめていくという理解をしていただきたいなと思うんですけど。

小林博次委員

だから、従来どおりやるということやろう。

豊田政典委員長

こんなことを1個1個今までの議論を整理しながら、深めるところは深めていきますよということです。従来どおりです。簡単に言えば。

小林博次委員

それから、動きは、たまに報告は行政側から受けるべきやと思うけど、行政側との交渉を逐一ここで審査するとか、そんな特別委員会ではないので、そんなことをやっている、頭でっかちになって、ちょっとも前へ進まんことになるので、やっぱり議論すべきは議論して、報告を出して、しかるべき行政側とか市民運動を進めてもらう。そういうことしかないと思うんやけど。あんまり背負い込んでしまっちは何もできやん。遅くなってしまう

だけで、かえって動きがやりにくい。ほかの人たちが動けなくなってくる。

豊田政典委員長

ありがとうございます。

ほか、どうでしょう。今のも踏まえて。

中川雅晶委員

正副委員長のほうから、ある一定の方向性を示されたというふうに認識しているんですけど、経営主体、それから、その財政の負担、それから、いろんな経営改善策、環境整備、市民、企業への呼びかけ、ちょっと文言でわかりにくいところはあるんですが、ただ、おっしゃっている内容の方向性は、私はそういう方向で議論して行って、中間報告なり提言とか報告、報告書ですよ。委員会報告を出すという方向は正論なのかなというふうに思いますので、そういう方向性で進めていただくということによろしいかと思います。

豊田政典委員長

ありがとうございます。

日置記平委員

まず、少し戻って、参考人をこの方をお願いするということです。私、ちょっと初めから少し気になったのは、向こうへ依頼文として、あなたに参考人として四日市市議会へお越してくださいという文章にするのか、ここに書いた1から4までの項目について、つまりどういうことかという、この人が、今、うちとしては参考人という言い方をしている。この人が、来てもらって、話をすることは、つまりこの項目になると思うの。

何かと言ったら、この人がいろんな難しい環境の中で、幾つかクリアして、赤字から健全経営の方向に向けてきた、その体験と知識を、言いかえれば経営力、それを私たちは学ぶということになることがいいたらと思うの。我々も皆さん方も。つまり経営なんですよ。そうしたら、私たち、経営は素人か玄人かと言ったら、素人に決まっているの。でも、それを勉強しなかったら、この委員会の持つ意義はないわけよ。

としたら、行政の皆さんと議会と市民が、この路線を赤字から黒字に転換するかという

知識を持ち合わせるといふことは、学ぶといふことは、つまり経営なんですよ。

すると、この人に参考人という言い方でいいのかといふふうに、私は疑問を持つんですよ。言い方は、講師、先生をお迎えして、経営知識を学ばせていただくといふところに変えないといけないのではないかなと。すばらしければすばらしい人ほど、参考人という言い方よりも、講師という言い方のほうが、来てもらう方がいいように思うのね。だから、ここのところはちょっと考え方を変えたほうがいいと、私は思う。

あの要請文書はもう行っているのかどうか知りませんが、参考人という呼び方の、この私たちの世界はいろいろありますけど、でも、ここに今、委員長、副委員長の考える1から5までのところを学ぶについては、経営力を学ぶといふことに言い換えることができると思うので、この来てもらう方の参考人、そりゃ参考人って、参考にしたいという意味は通ずるけど、参考人といふのはどうなんやね。ちょっと講師で先生と言ったほうがええのと違う。これはちょっと注意しておかなあかんと思うのね。これ、委員長、ちょっとお任せします。

それで、これは重要ですよ。ここに書かれたやつは。そんなことを起点にして、お互いに我々は学んでいくべきであろうと。でなかったら、これ、解決できやんと思うね。

豊田政典委員長

ありがとうございます。

参考人については、言われるとおりで、前からそうなんですけど、議会の制度として、参考人制度じゃないと講演になるんですけど、講演ではないので、心苦しいんですけど、その言葉で要請もしていただいているし、どうしてもその制度しかないんです。

当日は、私のほうで進行すると思いますが、どうでしょう、皆さんも先生という意識だと思いますから、小嶋先生と呼ばばいいかな。

日置記平委員

そのほうがええな。

豊田政典委員長

小嶋先生という、参考人といふのは言いませんので、小嶋先生という呼びかけにしてい

こう思っておりますので、意識としては、講義をいただき、助言をいただくという、その思いは同じです。制度上は参考人ということになっています。心苦しさをもちながら、要請をしております。

じゃ、それはそういうことで、この今後についての意見、もう少しあれば出していただき、まあ、そうだなと、今までどおりなんですけれども、整理をしてみたかった。この時点でね。ということです。どうでしょうか。よろしいですか。

芳野正英委員

おおむねその正副委員長の提案でいいかなと思いますが、やっぱり1から5までの幅広い部分の全てを、もちろん5月までにできればいいんですけど、やっぱりちょっと量も多いかもしれないなというのは、さっきちょっと聞いていて思ったんですけど、特にやっぱり1番、2番というふうに、丸で囲っていただいたみたいに、そこがやっぱり集中的なテーマになるのかなと思うので、そこを、特に1の経営主体、近鉄以外の部分の可能性も探るという点は、少し早目にやっていったほうがいいのかなと、そこが中心になっていくのかなというふうには思うので、そのあたりはしっかり掘り下げてできるのであれば、それでいいかなと私も思います。

豊田政典委員長

ありがとうございます。

小林博次委員

報告書ということで、報告書やと、今まで議論してきた中身が報告されるので、例えば経営主体は何と何を議論した。それから、補助金の項はどの部分を議論したとか、経営改善策というのは、多分近鉄としゃあ、もう精いっぱい今までやってきておるやろうから、我々が改善策を示せるかという議論もやっぱりちょっとやりにくいと思うので。それから環境、その5番目がちょっとどうなるのか、ちょっとよくわかりませんが、その大きい項目の横へ小さいのをちょっと出してもらって、それに沿ってまとめていく。報告書をまとめるということでもいいのではないかと思うわね。

豊田政典委員長

言われるとおりで、例えば5番について何と書いたかということ、市民アイデア、さっき配りましたやんか。その中に結構こういうのがありますので、市民アイデアの、報告書に入れ込み方として、この部分も結構あるのかなということ。それから、言われるように、3番ってわかりにくいんですけど、近鉄ができることもあれば、行政ができること、それから、市民ができること、そんなここに小見出し、僕はメモであるんですけど、ここは書きませんでした、そのとおりなんです。小見出しがついた議論になっていくと思いますし、今までそういう議論をしてきたと。

ですから、今までここで出された意見というのを、改めてここに整理したものを2月7日からの委員会になります、また改めて出しますので、そこで深めるやつは深めていくし、これはそういう議論でもういいよねというやつは、そういう整理にしていくと。今までの7回、8回の議論を振り返ってみて、こういう整理になるのかなというふうに捉えてもらえば、報告書という流れでわかりやすいと思いますけど。

小林博次委員

了解。

森 康哲委員

2番の市の補助なんですけれども、いろんな自治体を見ても、市単独というんじゃないかと、やっぱり国や県もにらんだ補助メニューを最大限利用した形になっているので、やっぱりそういうところも目を向けてやっていく必要があるんじゃないかなと思うので、その辺を探りながらやって、まとめていきたいと思うんですが。

豊田政典委員長

市の補助プラス国、県の補助についての議論というか、こっちから情報提供しますから、それについての確認になるのか、議論になるのか、わかりませんが、議題に上げていくということですね。

加藤清助委員

さっき確認があったように、提言というと、ちょっと委員会の調査の役割からするとということで意見があったように、おおむねさっき従来の委員会報告という位置づけ、様式をとるとということで理解したんですけれども、五つの項目を正副委員長のほうから示されて、もっともだなというふうに思っていて、ただ、この委員会の委員会報告としてまとめられる際に、この間も経営主体は幾つかあるよというのは議論してきたし、市の補助のあり方についても、温度差はやっぱり委員の中にあるんですよね。そういう場合に、委員会報告としてまとめるときに、提言だと、経営主体はこうあるべきとか、市の補助はこうあるべきという結論づけになってくるというニュアンスなんですけれども、委員会報告と言った場合に、いろいろ調査研究して、こういう意見もあった、こういう意見もあったというふうになる可能性もあるし、全員のところで、委員のところで合議ができれば、例えば市の補助はこういうのが望ましいとか、そういう結論づけになっていくのかどうかというところ辺のイメージが、ちょっとどうなるんやろうという私の素朴な疑問です。

もう一つは、四つ目に環境整備というふうな言葉でタイトルの案が出ていて、委員長から、路線の周辺開発だとか、バスとの連携だとかという内容をはらんでいるというふうにお聞きしたんですけれども、私は、せっかく市民アンケートもとってやってきて、今、あの路線の歴史的な経過や、果たしてきている役割や存在意義を考えると、その環境という言葉の中にももちろん入ると思いますけれども、とりわけ沿線の市民生活との暮らし、そういう部分での内容をボリューム的には調査の中身としてしていったほうが、より議会と市民生活、市民生活を受けて、議会としてこの路線の問題を調査してきましたよ、したよという中身にしたらどうかなという思いはしています。これは私の意見です。わかりますか。わからないですか。

豊田政典委員長

一つ目は、一つ目の意見が集約できればいいし、分かれたらどうするんだという疑問と
いうか、そんなことですよね。それは私にもわかりませんので、分かれた場合は、無理に
集約する必要もないし、多数決もしませんので。

加藤清助委員

各論併記ね。

豊田政典委員長

併記になると思います。

それから、次はちょっとわからん。暮らしというのがわからん。

森 智広副委員長

加藤委員がおっしゃるのは、まちづくり的な要素ですね。

加藤清助委員

だから、沿線の人がこうだとか、運動に取り組んだりしていますやんか。自治会だとか。そういう観点からの部分。

豊田政典委員長

私の文章もちょっと全然熟慮できていないので、わかりにくい言葉になっちゃいましたが、僕が書いたのは、存続のための環境整備に、将来に向かってみたいな意味なんです。加藤委員の言われるのはちょっとまだわかりませんが、もう一回ちゃんと整理しますけど、言うてください。また、そこでも。

それでは、流れ的に、進め方の流れはおおむねこの方向でいかせていただくということで、これから、本格的には2月7日スタートになりますけど、それから、議会が始まっちゃって、日程の相談を最後にしますが、4月、集中的にまた後ほど日程をとらせていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

これが、じゃ、終わりますして、あとは最初に言ったように、資料請求いただいたやつの説明とやりとり、それから、一つ報告せなあかんやつが出てきたということなので、1回休憩をとりまして、35分まで休憩させてください。

14：24 休憩

14：36 再開

豊田政典委員長

それでは、再開をいたします。

ここからは、手元に配りました特別委員会第9回資料の説明をいただき、質疑をしたいと思えます。

第9回資料を見ていただいて、前回の委員会で請求いただいた内容の資料を用意いただきましたので、まず説明をよろしくお願ひします。

山本都市計画課長

都市計画課、山本でございます。

前回、ご質問いただきましたものについて、ご説明させていただきたいと思えます。

1ページをごらんください。

前回、近鉄内部・八王子線沿線の未利用地の状況を調べさせていただきました。この際の設定条件は、線路から500mの範囲内で設定させていただきました。500m、大体5分強、直線距離で5分強のエリアというところでさせていただきましたが、今回、それを倍の1kmにさせていただきました。その辺のところでは少し数字が変わっています。

まず、数字のほうでは、この1ページのごらんのとおり、開発済みの区域が95haから157ha、生産緑地は少ししかふえていませんが、23haから34ha、未利用地につきましては、61haから217haへと大幅にふえているというような状況でございます。

ただ、このあたりについては、ちょっと2ページ以降をごらんいただきながら、少し説明させていただきたいと思えます。

範囲が広がりましたもので、ちょっと2ページにまたがって、見開きのような形にさせていただきました。500mから1kmにすることによって、ちょっとの部分に大きく赤いところ、要するに未利用地の面積がふえております。ただ、ちょっとこの未利用地につきましても、ちょっと設定条件のある未利用地でございます。

2ページのほうをごらんさせていただきたいと思えます。

西日野駅の上に赤いエリアがあります。これは、実は四郷風致地区でございます。したがって、ちょっと開発等については制限がかかっているエリアでございます。そして、その反対、四日市南高等学校側のところでございます。ここも赤いエリアが広がっておりますが、南部丘陵公園とともに国有財産のエリアが入ってきているというような状況でござ

ざいます。

そして、3ページをごらんいただきたいと思います。

3ページにつきましても、泊山公園の赤い面積及び南部丘陵公園から続く赤い未利用地のほうがふえているというところがごらんいただけると思います。

そして、一番南になりますが、内部駅からちょっと内部川を渡った反対側になりますが、みかん山と呼ばれる山の一番北の端あたりのところで、大規模な未利用地があるというところは見ていただけると思います。ほとんどが市街化区域でございますので、土地利用の問題の点はございますが、このような感じで未利用地が広がっているというところはごらんいただけるのではないかと、そのように考えております。

そして、4ページ、5ページをごらんいただきたいと思います。

線路から1km範囲内の学校、神社仏閣、最寄りの公共施設というようなものを落とさせていただきました。やはり昔から続く集落のあたりのところに、お寺ですとか神社仏閣、やはり古くから開けたまちが続いているところですので、旧東海道沿いというところも、やはりこういうような神社仏閣というところが、広く広がっているというところがごらんいただけるものだと思います。

続きまして、6ページ、7ページをごらんいただきたいと思います。

以前に資料として出させていただいたことがあるんですが、近鉄内部・八王子線の沿線の人口データでございます。このデータにつきましては、平成25年1月段階でのデータに改めさせていただいてはおります。

沿線の人口といたしましては、常磐、日永、四郷、内部地区、人口としては8万8000人余ですが、線路からの距離を勘案しまして、近鉄内部・八王子線の利用人口としては、その半分当たりの4万4000人余ではないかというような判断をいたしております。

それと一緒に、今年の段階で沿線学校のほうに調べていただきました、生徒数と近鉄内部・八王子線を利用される方々というところの合計でございます。生徒数としては3500人余、でも、利用者としては1100人余というような形になっております。

それを7ページのほうでは細かく表現させていただいております。通称町名に基づきまして人口データを出して、その上で、その町名が線路から著しく離れていないところ、徒歩もしくは自転車、そして、もしくはお送りいただくキス・アンド・ライドあたりのところをご利用いただけるのではないかと、人口を足したものでございます。これが先ほど

合計させていただきました、4万4000人余の利用者として見込めるのではないかと人口でございます。

そして、8ページ、9ページをごらんいただきたいと思います。

次回に参考人としておいでいただく小嶋社長さんの経営されます、和歌山電鐵貴志川線のエリアでございます。こちらは資料をいただいてきたものなのですが、沿線の利用圏域を、自転車圏域とキス・アンド・ライドに相当する乗車圏域というようなものにつけてお考えのようでございます。延長としては14.3km、ちょうど近鉄内部・八王子線の倍でございます。駅数は14駅という形で、1.5倍程度でございます。

その中で、この和歌山電鐵貴志川線として経営されている職員配置のほうについて資料を頂戴いたしました。最近までは社員数50名で運営がなされておられました。つい直近ではお一方ふえまして、企画部長と呼ばれる方がふえられましたので、51名で会社経営をなされております。

そして、平成23年までの人件費については、1億6000万円余という形です。単純に50人で割らせていただくと、300万円程度で人件費を運営されているというところでございます。ただ、この和歌山電鐵に言えますことは、非常に兼務をなされてやられておるところが特徴でございます。6ページの上のほうのいわゆる社長職やら会社本体の部分、会社の基幹部分でございますが、これは両備グループとして運営されておられますので、和歌山電鐵としては、人件費が計上されていない部分でございます。したがって、この下の鉄道部長、総務部長あたりのところから人件費が発生するような格好になっております。

鉄道部長のところを緑色に塗らせていただいておりますが、鉄道部長は営業課長も兼務する。そして、右側になります。総務部長は総務課長も兼務するとともに、営業推進係長も兼務しつつ、本社の執行役員にもなっているというふうに、1人何役もという形になっております。

なおかつ現場のほうもそうなのですが、運転に関するところですが、指令担当につきましても、これは兼務をしながら回していく。主・副があってもバックアップし合うというような形になっております。

そして、本来の運転士のほうでございますが、CTC、要するに列車制御に関するところにつきましても、運転士さん自身が兼務をかけるというようなところで、全て賄ってお

られるというような形でございます。

そして、和歌山電鐵の特徴としてありますが、営業推進係長の下に、一番下に貴志川駅カフェ担当というところがございます。これは、最近のマスコミに載るような関係になって、駅のほうでの営業活動、運賃収入以外のところで頑張るというところがありまして、このあたりのところで頑張っておられるというところでございます。

以上が和歌山電鐵貴志川線の説明でございます。

以上です。

豊田政典委員長

説明いただきました。ありがとうございました。

それじゃ、まず、和歌山電鐵貴志川線以外、前半部分について、ご質疑ご意見あったら出してください。

これは、さっきの私の無理やりのところがあります。区分でいうと4番目のところ、将来にわたっての存続環境を整備していく方向性というところに関係がある部分ですが、どうでしょう。感想でも結構です。

今、特になければ、また報告書にまとめていく段階で、これを頭に置きながら、使いながら、意見をいただいても結構ですが、きょうのところはよろしいですか。今のところ。

(異議なし)

豊田政典委員長

それじゃ、後半部分、これは次回に関係しますから、和歌山電鐵貴志川線の路線人員配置について、いかがでしょうか。

森 智広副委員長

ちょっと前後する部分もあるんですけども、その人件費1億6000万円の部分について、ちょっと正副委員長の打ち合わせのときになかった数字なので、この1人当たり300万円という、ちょっと驚異的な数字なんですけれども、この数字、ちょっとさかのぼるんですけど、やっぱり小嶋先生にこの部分というのをしっかりと聞きたいなというがあるので、

もしよければ、小嶋先生への質問内容にこれをつけ加えていただきたいと思います。

豊田政典委員長

それじゃ、先ほどの2項目に加えて事前にも伝えておきたいと思います。

ほか、どうでしょうか。今の時点で。

いいですか。

(なし)

豊田政典委員長

じゃ、また次回に関連部分の質問があれば、1月31日に出していただくということで、これが前回出してもらった資料請求の部分であります。

これはここまでにしまして、きょうは、あと、先ほどの流れを決めてもらったので、日程をとりたいのと、プラス報告が1件あります。

日程を決めていきたいと思いますが、皆さん、予定帳は持っていますか。持っていないければ、少し待ちますけど、いいですか。

今、決まっているのが、もう一度確認しますと、今月1月31日、小嶋先生に来ていただくのが午後2時からです。これは、はっきりしませんが、午後5時くらいまで予定してください。予定として午後2時から午後5時。

それから、その次、2月7日の午後1時30分、これは決定しております。

その次ですが、定例会もありますので、次は4月になってしまうのかなと思ってまして、4月に、今、手元に、私のところにあるのは、既に決まっている委員会会議の日程がありますので、そうでないところをとりたいんですが、報告書を少なくとも5月中旬ぐらいという目標ですので、4月は目一杯やってもらわなあかんですけど、どうでしょうね。僕は5回ぐらいかなと思っているんですけど、ちょっと安全も含めて5回ぐらいとってほしいなと思っていますが、回数的にはそんなもので協力いただけますか。

(異議なし)

豊田政典委員長

じゃ、今から言いますので、ちょっと待ってくださいね。

4月の第1週からいきますが、第1週で入っているのが、4月2日と5日に午前が入っています。4月2日と5日、それに、例えば合わせて。

小林博次委員

午前ですか。

豊田政典委員長

午前です。違う、うちじゃないですよ。ほか。よそが。

4月2日の午後、ご都合が悪い方はいませんか。

(なし)

豊田政典委員長

じゃ、4月の第1回目が4月2日の午後1時30分です。午後というのは1時30分、全部。その次、2週目。2週目は4月10日、10日は水曜日です。この水曜日の午後、ご都合悪い方はみえますか。

(なし)

豊田政典委員長

オーケー。じゃ、2回目が4月10日の午後、水曜日です。

3回目、じゃ、4月18日の午後、18日は木曜日です。都合悪い人。

(なし)

豊田政典委員長

じゃ、4月18日が3回目です。

4回目、4月24日水曜日の午後。

(なし)

豊田政典委員長

オーケー。4月24日の水曜日。

あと1回が難しいな。4月26日。続きますけど、報告書をまとめる最終ぐらいですけれども、4月26日の午後。

諸岡 党委員

4月24日をやめて4月26日にやるんですか。

豊田政典委員長

いや、4月24日もあり。

諸岡 党委員

わかりました。

豊田政典委員長

4月24日の次の、5回目が4月26日の金曜日の午後。

そういうことで、大変集中的になりますけど、5日間鋭意調整いただいて、ご出席のほどよろしく願いいたします。

もう一回言います。4月2日、10日、18日、24日、26日です。いずれも……。

諸岡 党委員

4月24日から2日間ではまとめるのは無理がある……。

豊田政典委員長

まとめの整理ぐらいにならんかな。無理。

小林博次委員

難しいわな。

豊田政典委員長

そうか。じゃ、ちょっと待ってね。

済みません。最後をちょっと再調整で、4月26日をやめまして、5月に入りますが、連休中ですが、5月1日の午後というのはどうでしょう。

よろしくない。5月2日でもいいですけど。1日と2日なら、どっちがいいですか。

日置記平委員

1日やね。

諸岡 覚委員

5月1日は私はちょっと。

豊田政典委員長

じゃ、5月2日で。5月2日の午後に振りかえです。4月26日をやめまして、5月2日の午後、いずれも1時30分で、調整よろしくお願いします。

[次回以降の日程は4月2日、4月10日、4月18日、4月24日、5月2日と決定する。]

豊田政典委員長

最後ですが、実は報告に近いんですけど、実は存続を進める議員連盟がありますよね。議員連盟が協賛のような形で四日市市自治会連合会に協力し合いながら、あすの14時から日永地区市民センターで、市民との座談会をやり、ちょっと資料を配ってください、そういう話をいただきました。いろいろと準備はしてこられたそうですけれども、特に議員への周知がきょうになってしまったということが一つ。

それから、その中で、議会のほうからは、私のほうに要請がありまして、特別委員会の議論の内容を15分ぐらい報告できないかという要請をいただいたんです。議員連盟を通じて。

急だったもので、藤井議長にも相談しまして、きょうあすの話になりましたが、全議員に通知をし、また、私が話をするのであれば、特別委員会で了解を得たらどうだという話を、助言いただきましたので、報告というか意見をいただきたいんですけれども、あれば。

土井議員が会長ですけれども、おられないので、芳野委員は事務局長なので、少し説明をいただければなと思います。

芳野正英委員

これ、まず、1月から四日市市自治会連合会の皆さんが中心になって、この市民応援団をつくろうという動きを、取り組みをしていただいております、各署名活動に取り組んでおられた商工会議所と、それから、四日市市自治会連合会と商工会議所とは別ですけれども、各県立高校のPTAの皆さんが署名活動に取り組んでおられたということもありますので、その各団体の皆さんにお声をかけて、さらに老人連合会ですとか、社会福祉協議会の皆さんですとか、そういうところに自治会のほうからお声かけをいただいているみたいです。そういう形でこの市民応援団の、今はまだ仮称というふうにはなっておりますけれども、その団体に応援団をしていくということになりまして、土井会長を初めとする議員連盟も、そこに協力をしていこうということで進めさせていただいております。

ただ、1月中、どうしても全議員の方がなかなかそろうときもなく、土井議員もちょっと皆さんに周知、私も含めまして、皆さんにこの開催の周知がおくれまして、直前になってしまったことをまずもって大変申しわけございませんので、おわびを申し上げたいなというふうに思います。

自治会主催で、あす土曜日開催をさせていただいて、市役所からの現状説明と、それから、豊田委員長にもお願いをしまして、この特別委員会の取り組みも市民の皆さんにご報告をさせていただく場をつくらせていただこうかなというふうに思っています。

そういう現状説明を1時間ほどさせていただいた後に、各団体から対象者の方も集まっておりますので、存続活動について意見交換、具体的には全体としてどういう応援団としての活動をしていくかという中身の議論をさせていただくような感じになるのかなと

いうふうには思っているんですけども、こういう形で、まずは座談会という形で始めますけれども、実質には市民応援団の開催の段取りをして、毎月1回ずつぐらい会議をしていきながら、応援団の設立をしていこうかなというふうに考えております。

あまり先の話をも今の場でするのもどうかと思うんですが、最終的にはその応援団設立総会というのを5月ぐらいに結成をいたしまして、これからその存続活動を具体的に進めていくということを考えているようでありますので、本当に直前のご案内になって申しわけないんですけども、お時間ございます方は、ぜひあすお越しをいただければなというふうに思っていますので、よろしく願いいたします。

豊田政典委員長

という内容と参加の呼びかけでありましたが、その中でも、ここでは特別委員長として話をせいという要請ですので、私のほうから話をさせてもらおうと思っておりますが、ご了解いただけますかね。

(異議なし)

豊田政典委員長

それじゃ、参加をお願いいたします。

諸岡 覚委員

別に要請があって、行って話してもらうのは結構なんですけれども、このナロゲージ応援団という団体は、まだ団体として設立されてなくて、実際どこが主体でというのがさっぱりわからないんですが、どういう団体というのは、委員長に聞けばわかりますか。

豊田政典委員長

じゃ、芳野委員、説明してください。

芳野正英委員

これは、一応その事務局という形で、四日市市自治会連合会が引き受けていただいております。

るんですけれども、これはもともと設立を四日市市自治会連合会の高野会長とか、私どもも含めて、こんな応援団をつくったらいいなという話をしていたんですけど。というのは、以前に名鉄西尾・蒲郡線を視察に行ったときに、蒲郡市や西尾市は、そういう赤字路線存続のために、自治会や商工会議所や老人クラブや社会福祉協議会さんを集めた市民丸ごと応援団というのをつくって存続活動をしていますので、じゃ、それを四日市市でもやっぱり同様に、それぞればらばらに活動しておったらあかんですし、署名活動した後、じゃ、どういう応援団活動をしていこうかというのを、取り組みをせなあかんということを確認をしましたもので、一応事務局を四日市市自治会連合会が引き受けていただいて、声をかけさせていただいたのが、先ほど言ったように、商工会議所と商店会連合会と社会福祉協議会さんと老人会連合会と市P連、市のPTA連合会、それから各県立高校、それから西日野養護学校の学校とPTA、海星高校の学校とPTAに、今、声をかけています。あと、ごめんなさい、NPO協会ですね。今後、皆さんからこんな団体も参加を申し込んだらどうやというのを広げていく活動なんですけど、基本的にはまだ正式には設立総会を経ていないので、団体としてはまだ正式に誕生しているわけではないので、仮称という形になっていますけれども、核としてはそういう団体が入った応援団というのをつくっていこうということです。

諸岡 覚委員

そうすると、存在していない団体が主催しておるといえることですか。主催がその応援団ということは。

芳野正英委員

そういうことですね。その応援団としては組織立っては、まだないということですね。だから、準備会みたいな形ですね。設立準備会事務局が、この、今、四日市市自治会連合会にあるということですね。

諸岡 覚委員

素直に主催がこの応援団準備委員会か何かにしてもらったほうがいいわけですよ。というのは、後から議会が公務で出て行った先の主催団体が存在していない亡霊団体だという

のも困るで、素直にここは準備会としてもらったほうがいいような気がするんです。

小林博次委員

きょう聞いて、あした来いと言われても、ちょっと無理やと思うんやわ。ここで何が聞きたいかというのと、どうも参加すると受けている市民か団体ですら、特別委員会のメンバーが来ておらんやないかと言うに決まっておるわけ。痛くない腹を叩かれるわけや。だから、よく考えたら、議会の議員連盟のほうは何が何でも参加するわけや。だから、やっぱり主催団体の一つにはきちん議員も参加するって、それなりにそんなこと、最初にどんなことをしたらいいのか、それから、その意見を聞いて、どんなことをするのか決めて、それから座談会を呼びかけたり、あるいは呼びかけられたりという作業がないと、何か知らんでおったら、機関車だけ走っていったけど、我々はここに残っておるのではまずいと思うね。その辺ちょっと調整してやってくれるかな。何やってもええ、何やってもええんやけど、もうちょっと前に言ってもらえると参加しやすい。行ったら邪魔かなと思うかもわからんけどな。

芳野正英委員

全くご指摘はそのとおりでございまして冷や汗をかいて平謝りするしかないような事態でございまして、確かにおっしゃるとおりで、議員連盟も協力しますと言って、議会对応のほう、全くこの期まで直前になってしまったので、本当に改めておわびをするしかないのと、諸岡委員がご指摘するように、仮称であるならば準備委員会なので、名称ももう少し主催の部分で、主催としてばしっと名前がありながら仮称となっておるのは、確かに違和感を感じるので、ここは準備委員会というような形のほうがよかったんだろうなと思いますので、これはあしたで設立するわけでもないんで、今後の多分その設立の段取りのときには、そういう形にするように、またお話をしてみたいなというふうに思います。

豊田政典委員長

ということで、可能な限り我々も出席していきましようということにしておきたいと思えます。

森 康哲委員

ここ以外に近鉄内部・八王子線の問題を考える団体というのはいないんですか。

豊田政典委員長

芳野委員、わかりますか。

芳野正英委員

インターネット上で近鉄内部・八王子線同好会というのですとか、あと、NPO法人で四日市案内人協会なんかが、あしたは参加をしていただくようです。ネット上で広報したりしたもんですから、それで来られるところはあると思いますけど、まだ完全に網羅したかということ、そうでもないと思うんですよ。確かに声かけの漏れがあるかもしれないので、そこはまたこれから座談会をする中で、あんな団体に声をかけたらどうやとか、そういうご意見もいただいて、多分声をかけていくのかなというふうには考えていますけれども。もしご指摘ございましたら、またよろしく願いいたします。

森 康哲委員

NPO法人なんかは、ネット上でも、設立して、会長も決まっているというふうになっていたと思うんですけど。

豊田政典委員長

また、その辺の議論は議員連盟としてやってもらえますか。

森 康哲委員

わかりました。

豊田政典委員長

じゃ、この件はよろしいですか。

(なし)

豊田政典委員長

それでは、我々正副委員長から用意したのはここまでですので、なければ終わりたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なし)

豊田政典委員長

じゃ、どうもご苦労さまでございました。終了します。

15 : 12 閉議